

けんごし、黒白の二色あり、子の白きが直段少高し、是又屋敷廻り餘地あらばうゆべし、かきにははせ、藪にもまとはせ、其外他の物のさのみ盛長せざる所にうへ置て、竹を立は、すべし、土地の費へさのみなく、長くはひまとひ、子多くなる物なり、子を二月蒔置て、三月移しうゆるもよし、かきのもとなどにうへ付にして、少糞灰などかけ置べし、秋の末子熟し、蔓も枯て後下に筵など敷垣ををしたをし打て取べし、又一々つみ取もよし、多少により、所によるべし、藥屋に賣て利なき物にあらず、又子を多く取、油をしめ取もよし、

〔草木六部耕種法^{需花}〕凡牽牛ヲ作ルニハ、先其種子ヲ能ク撰ビ、苗代ヲ造テ苗ヲ爲立ベシ、苗代ハ赤土ニ臘土小便灰等ヲ能ク耙交へ、二月上旬ヨリ春分頃マデニ種子ヲ下シ、其培養ノ法ハ、悉ク藍苗ヲ爲立ル如クシテ、八十八夜過テ此ヲ移シ植ベシ、植地ハ花壇ニテモ、盆栽ニテモ、牡丹ヲ植ル心持ヲ少シ含テ植付置キ、時々盛養水ヲ薄クシテ洒ギ、盆栽ハ殊ニ此ヲ乾燥セシムルコト無カルベシ、

〔朝顔通下〕附録土拵方

植木しめの随分赤みあるあらしき土に、砂三分を和して、立冬より春分にいたる迄、雨のあたらずる所に圍ひ置、其後乾し、ほど能通し用ゆ、或はマイゴミ赤川同じ、○中略

尿入方

芽出葉生ひ蔓のびて、既に荅あらはる、節尿を入、又半月を経て尿を入、十日廿日目と次第に尿を見合て入べし、尤大抵のものは直入よりは、尿水をかけるべし、極日當りを吉とす、又斑のにおきものは尿を扣へて能日に當べし、大暑後の日は晝までの日を好て、晝後の日をいむべし、○中略

大輪仕様

土五合入鉢によし、尿土を入、たね四五りを真中へまき、程よきを殘して、其餘を去り、荅あらは